

「土砂災害への心構え」

茨城県 常陸大宮市立美和小学校 6年 阿部 <sup>あべ</sup> <sup>このか</sup>心奏

『土砂災害防止に関する作文』私は毎年、夏休みの課題一覧表の中からこれを選んで書いています。他の様々な課題よりも、一番真剣に考えなければならない事だと思うし作文を書く事で毎年、初めて知る事や学ぶ事が出てくるからです。作文を書く事がきっかけで、わたしの家では毎年この時期になると夕食の時に豪雨や地震、土砂災害、それから身を守る事、避難についての話題が出ます。家族で話し合うきっかけになっているので、いい事だと思っています。

今年は、夏休みに入る少し前の7月5日から6日にかけて、九州北部豪雨が発生しました。福岡県や大分県では特に雨量が多く、川が氾濫し大量の流木が河川に流れこみました。土砂崩れでなぎ倒された杉などの木が川を流れて下り、川の流れをせき止めたからです。杉は、根が浅いため『表層崩壊』が起こりやすいそうです。山の表面をおおっている土の部分だけがすべるように崩れ落ちることを言います。

わたしの家は、目の前も後も杉山です。市のハザードマップを見てみると、土砂災害警戒区域になっています。近くには老人ホームもあるしお年寄りもたくさん住んでいます。地域の中で、身軽で自由に動ける家庭が中心となって声をかけたり助けたりしながら、お年寄りをサポートしたらいいと思います。小学生の私ができることは、限られていて小さいかもしれませんが、でも、みんなと協力して声をかけたり手を貸すことはできます。この作文を書く事で調べたり学んだりした事がたくさんあるので、それをみんなに伝える事も私ができる事です。

土砂災害警戒区域になっている私たちの地域には、山から流れてくる沢が多くあります。その沢の辺りが特に被害の心配があるそうです。でも、きちんと対策も進んでいます。数年前とそして近々また、砂防堰堤工事が予定されています。たくさん山の土や砂が水と交じって流れ出す土石流を防ぐための施設を作る工事です。流れてきた土や砂を貯めて、私たちを守ってくれるのです。山間部に住んでいる私たちは、特に地震や大雨の時の、「土石流」や「地すべり」「土砂崩れ」などの不安の中で生活しています。住んでいる人しか経験しないかもしれませんが『山が鳴る』事があります。ゴォーという音がして地響きのような感じです。この山鳴りがするとドキッとします。大きな地震がくるかなと心配になります。砂防堰堤工事が少しずつ進んできて、私の住んでいる地域は土砂災害の不安がだいぶ減ってきました。まだまだ危険なところがありますが、工事がきちんと完成すれば毎日の生活がもっと安心安全になると思います。

最近、すごく変な天気が多いです。8月なのに、毎日毎日くもり。この夏、急に空が真っ暗になって、どしゃ降りになる日が何回もありました。1時間に50ミリを超えるような局地的な大雨が増加し土砂災害による被害も多発しているそうです。日本は、土砂災害がとても多い国です。それは、変えられない事実です。雨が多いこと、険しく崩れやすい地質の山が多いこと、川が急流なこと、地震や火山が多いこと、そして最近、局地的大雨（ゲリラ豪雨）が増えていることなどの理由だと思います。雨や地震、そして起こる災害を止める事はできません。私たちにできるのは、身近な危険箇所をきちんと知ってアンテナを高くして情報を手に入れる事。そして、気象情報に注意して避難場所や非常持ち出し袋を常に用意しておく事。こうした、もしものための対策が突然やってくる土砂災害に対してあわてる事なく冷静に対応する事につながると思います。なのでこの対策を自分はもちろん周りにも呼びかけていきたいです。